

## ごあいさつ

このたびは、ヤマハポータブルPAシステム STAGEPAS 250Mをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。STAGEPAS 250Mは、スピーカーとミキサーで構成されたPAシステムです。STAGEPAS 250Mのさまざまな機能を十分に活用するために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

## 特長

- 2way 10インチ (25cm) スピーカー**

コンパクトながら高品位でパワフルなサウンドを実現できます。外側に強いボディで屋外でも安心して使用できます。

- 10ワードミキサー**

イコライザーやリバーブ機能まで内蔵したオールインワンワードミキサー。2モノラル+4ステレオ入力に対応しています。多彩な楽器や音響機器を接続できます。

- コンパクト収納**

ミキサーをスピーカーに収納できるので、小さいスペースで屋内でも屋外でも対応できます。

## パッケージの内容 (お確かめください)

スピーカー (500S)
 ミキサー
 電源ケーブル
 スピーカーケーブル
 取扱説明書 (本紙)
 保証書

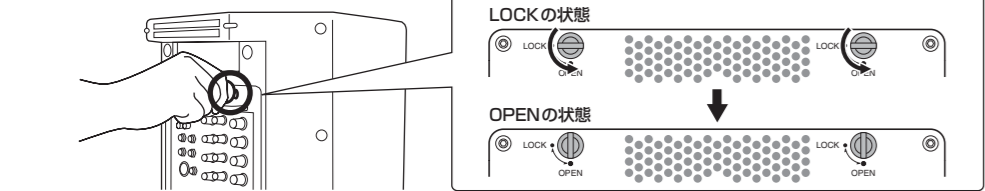
**NOTE:** 工場出荷時には、ミキサーはスピーカーに取り付けられています。

# ご使用前の準備

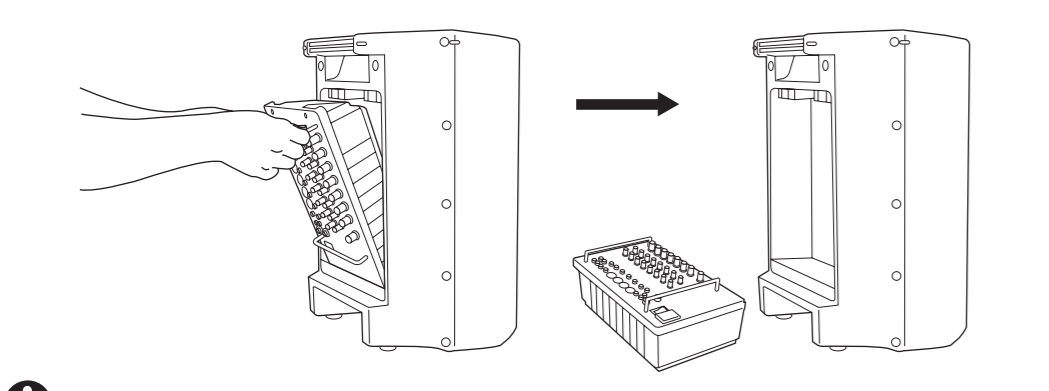
## ミキサーの取り外し

- ミキサーの電源が切れていることを確認します。

- コインなどを使って、ミキサーの固定ネジをLOCKからOPENの方向に「カチッ」と音がするまで回します。



- ミキサーのハンドルを持ってスピーカーからミキサーを取り外します。



**!** ミキサーをスピーカーから取り外すときやミキサーだけを持ち運ぶときは、必ずミキサーのハンドルを使用してください。

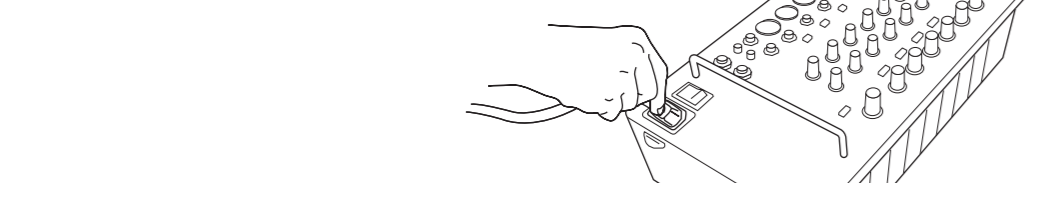
ミキサーを取り付けるときは、スピーカーの溝とミキサーの凸部を合わせてミキサーをしっかりはめ込んだあと、固定ネジをOPENからLOCKの方向に「カチッ」と音がするまで回します。

**NOTE:** ミキサーをスピーカーに取り付けたままでもご使用いただけます。

## 電源を入れる/切る

- POWERスイッチが「OFF」になっていることを確認します。

- [AC IN] 端子に付属の電源コードを接続し、電源コンセント (AC100V) にプラグを差し込みます。



- スピーカーから大きなノイズが発生しないようにするため、音源に近い機器から順に電源を入れてください。例 CDプレーヤーや楽器などの音源→STAGEPAS 250M
- 電源を切る場合は、上記の逆の手順になります。
- 電源を入れる前に、LEVELコントロール、MASTER LEVELコントロールを「0」にしておいてください。

- POWERスイッチを「ON」側に押すと、電源が入ります。

POWERインジケータが点灯します。

電源を切るには、POWERスイッチを「OFF」側に押します。

POWERインジケータが消灯します。

# 困ったときは? (故障かな?と思ったら)


<b>電源が入らない</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>• 付属の電源コードが電源コンセントに正しく接続されていますか?</li></ul>
<b>突然、電源が切れた</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>• ミキサーのパネル上の通風孔をふさいでいませんか?放熱が不十分のためミキサーに熱がこもると、いったん電源が切れて自動復帰します。</li> <li>• LIMITERインジケータが長時間点滅していませんか?内蔵の10ワートンプに過大な負荷がかかると、いったん電源が切れて自動復帰します。</li></ul>
<b>音が出ない</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>• 外部機器 (マイクを含む) やスピーカーは、正しく接続されていますか?</li> <li>• 各チャンネルのLEVELコントロールやMASTER LEVELコントロールなどは、適切に調節されていますか?</li> <li>• SPEAKER端子には、付属のスピーカー (500S) を接続していますか?</li> <li>• POWERインジケータが点滅していませんか?スピーカーケーブルがショートしている場合があります。スピーカーケーブルが正しく接続されているか確認したあと、再度電源を入れてください。</li> <li>• CLICKスイッチ (ヘッドフォン用) はOFFに設定されていますか?</li> <li>• それでも音が出ない場合は、取扱説明書 (本紙) に記載されているヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。</li></ul>

- CLICKスイッチ (ヘッドフォン用) はOFFに設定されていますか?

- それでも音が出ない場合は、取扱説明書 (本紙) に記載されているヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

### 音が歪んだり、雑音が入る


- 各チャンネルのLEVELコントロールやMASTER LEVELコントロールは、上がりすぎていませんか?
- 各チャンネルのMIC/LINEスイッチは適切に設定されていますか?
- チャンネル (1、2) のXLRタイプとフォーンタイプの端子に両方接続していませんか?どちらか一方の端子だけをご使用ください。
- ミキサーに接続した機器からの入力信号のレベルは適切ですか?

- チャンネル 1、2のLIMIT/COMPスイッチをCOMP (  ) にしてみてください。コンプレッサー/リミッターにより、音の歪みが補正されます。


### 音が小さい

- 各チャンネルのLEVELコントロールやMASTER LEVELコントロールなどは、適切に調節されていますか?
- 各チャンネルのMIC/LINEスイッチは適切に設定されていますか?
- チャンネル (1、2) のXLRタイプとフォーンタイプの端子に両方接続していませんか?どちらか一方の端子だけをご使用ください。
- ミキサーに接続した機器からの入力信号のレベルは適切ですか?
- コンデンサーマイクを使用している場合は、PHANTOM切り替えスイッチがONの設定になっていますか?


### リバーブがかからない

- 各チャンネルのREVERBスイッチはON (  ) になっていますか?
- REVERBコントロールは適切に調節されていますか?

### スピーカーからの音に迫力をつけたい

- SPEECH/MUSICスイッチが、MUSIC (  ) の設定になっていますか?
- イコライザー (HIGH/LOW) は、適切に調節されていますか?

### スピーチの声をはっきりさせたい

- SPEECH/MUSICスイッチが、SPEECH (  ) の設定になっていますか?

- イコライザー (HIGH/LOW) は、適切に調節されていますか?

### メインミキサー用の信号を出力したい

- ST SUB OUT 端子にメインミキサーを接続してください。ST SUB OUT 端子は、MASTER LEVELコントロール調節前 (プリフェーダー) の信号を出力します。ST SUB OUT 端子の出力信号レベルは、ST SUB OUT コントロールで調節してください。MASTER LEVELコントロールの影響を受けません。ST SUB OUT L 端子のみ使用すると、LとRの信号がミックスされて出力されます。

## ブロック図

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電や火災、故障の原因になることがあります。

**電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。**電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

<b>設置</b>
<b>!</b> <b>スタンドを使用する場合は、以下の点に注意する。</b> この機器が転倒して破損したり、お客さまや他の方々がけがをしたりする原因になります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 1台のスタンドに、1台のスピーカーのみを設置する</li> <li>• 付属のネジがある場合は必ずそれを使用する</li> <li>• 固定用のネジはしっかりと締める</li> <li>• スタンドの脚は最大に開いた状態で使用する</li> <li>• スタンドは140cm以下の高さで使用する</li> <li>• スタンドが倒れないように、スタンドの脚に砂袋などで重量を付加する</li> <li>• スタンドを移動したり高さを調整したりする前に、スピーカーをスタンドから取り外す</li> <li>• 設置したスタンドの回りは、人の立ち入りを制限する</li></ul>




## 安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

### この機器を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。

**!** この機器を電源コンセントの近くに設置する。電源プラグが容易に手が届く位置に設置し、異常なにおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」していただきたいという強制を示します。

**■「警告」と「注意」について**
以下、誤った取り扱いをすと生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

**!** **警告** 「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

**!** **注意** 「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

<b>!</b> <b>警告</b>
<b>電源/電源コード</b>
<b>!</b> <b>電源は必ず交流100Vを使用する。</b> 誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。
<b>!</b> <b>電源コードは、必ず付属のものを使用する。</b> 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をアース接続してください。確実にアース接続しないと、感電の原因になります。また、アース線を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いたあとで行なってください。
<b>!</b> <b>電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけないようにする。</b> また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
<b>接続</b>
<b>!</b> <b>アース (接地) を確実にに行なう。</b> 電源コードには、感電を防ぐためのアース線があります。電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をアース接続してください。確実にアース接続しないと、感電の原因になります。また、アース線を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いたあとで行なってください。
<b>!</b> <b>この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。</b> 感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または取扱説明書 (本紙) に記載されているヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。
<b>!</b> <b>水に注意</b>
<b>!</b> <b>この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。</b> 内臓の水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または取扱説明書 (本紙) に記載されているヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
<b>!</b> <b>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。</b> 感電のおそれがあります。
<b>!</b> <b>異常に気づいたら</b>
<b>!</b> <b>電源コードやプラグがいたんだ場合、または使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。</b> 感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または取扱説明書 (本紙) に記載されているヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
<b>!</b> <b>この機器を落とすなどして破損した場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。</b> 感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または取扱説明書 (本紙) に記載されているヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

**!** **他の機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行なう。また、電源を入れたら切り切りする前に、必ず機器の音量 (ボリューム) を最小にする。**感電、感力障害または機器の損傷になることがあります。

**!** **SPEAKER端子には、付属のスピーカー (500S) とスピーカーケーブルを使用する。**それ以外のスピーカーまたはケーブルを使うと、火災や故障の原因となることがあります。

<b>!</b> <b>使用時の注意</b>
<b>!</b> <b>スピーカーの故障を防ぐために、電源を入れるときは、最後にこの機器の電源を入れる。また、電源を切るときは、最初にこの機器の電源を切る。</b>
<b>!</b> <b>この機器の通風孔、パズレポート (前面の穴)、パネルのすき間に手や指を入れない。</b> お客様がけがをするおそれがあります。
<b>!</b> <b>この機器の通風孔、パズレポート (前面の穴)、パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。</b> 感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または取扱説明書 (本紙) に記載されているヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
<b>!</b> <b>大きな音量で長時間ヘッドフォンやスピーカーを使用しない。</b> 聴覚障害の原因になります。

**!** **音が歪んだ状態ではこの機器を使用しない。**機器が発熱し、火災の原因になることがあります。

**!** **この機器の上のつたり重いものをせたりしない。**また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

**!** **この機器の上のつたり重いものをせたりしない。**また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。この機器が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。

**!** **保護回路 (ポルススイッチ)**スピーカーシステムは、自動復調型ポルススイッチが内蔵されているため、消電による故障から高音域ドライバーを保護します。スピーカーシステムキャベネットから高音域が出力されない場合は、すぐにこの機器の電源を切り、ポルススイッチをリセットする (冷やす) ために、2～3分そのままにしてください。出力を下げたから再度電源を入れ、高音域ドライバーの出力を確認してください。続けてスピーカーを使用する場合は、ポルススイッチが作動しないレベルで使用してください。

**!** **携帯電話からの影響について**この機器が転倒して破損したり、この機器にノイズが入ることがあります。そのようなときは、少し離れた場所で携帯電話をご使用ください。

**!** **不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。**使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

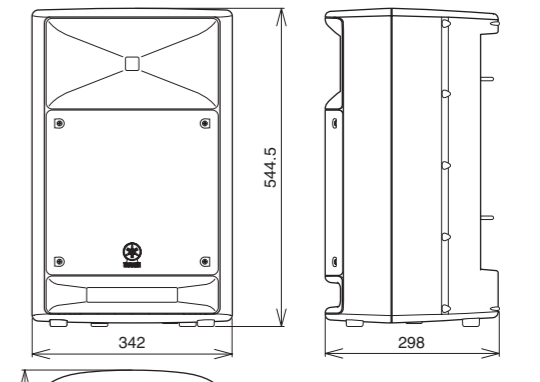
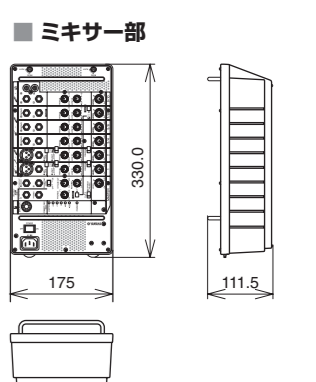
スイッチ、ボリュームコントロール、接続端子などの消耗品は、使用期間により劣化しやすいため、消耗に応じて商品の交換が必要になります。消耗品の交換は、お買い上げの販売店または取扱説明書 (本紙) に記載されているヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

**!** **この機器が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。**

**!** **この機器を電源コンセントの近くに設置する。電源プラグが容易に手が届く位置に設置し、異常なにおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。**

**!** **この機器を電源コンセントの近くに設置する。電源プラグが容易に手が届く位置に設置し、異常なにおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。**

## 寸法図

<b>■ スピーカー部</b>		<b>■ ミキサー部</b>	
	342		175
	545.5		330.0
	298		111.5
	120		2-M8 x 25
	120		スタンド用穴 35 - 36

## 仕様

<b>■ 一般仕様</b>	COMP/LIMITスイッチON=コンプレッサー、OFF=リミッター(CH1/2)
<b>最大出力</b>	250W (±10%) /4Q @10% THD at 1kHz (SPEAKER) ≥200W/4Q @1% THD at 1kHz (SPEAKER)
<b>消費電力</b>	35W
<b>質量</b>	13kg (スピーカー+ミキサー)
<b>入力チャンネルイコライザー特性</b>	最大可変幅(±15 dB)
<b>入カチャンネルイコライザータイプ</b>	HIGH: 10kHzシールドングタイプ
<b>LOW:</b>	100kHzシールドングタイプ
<b>EQを除く (SPEAKER)</b>	
<b>■ スピーカー (500S)</b>	
<b>全高調歪率</b>	±0.5% @20Hz, 1kHz, 20kHz +14dBu GAIN=すべて/ノミナル (ST SUB OUT, ST LINK OUT)
<b>55Hz～20kHz (-10dB)</b>	
<b>クロストーク (1kHz)</b>	≤-70dB 入出力間
<b>ファンタム電源</b>	+15V (CH 1-2)
<b>再生周波数帯域</b>	55Hz～20kHz (-10dB)
<b>スピーカーユニット</b>	LF: 10" (25cm) コーン
<b>HF:</b>	1" (2.54cm) コンプレッションドライバー

\* 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

## サービスについて

### 保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡ししていただきます。ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめの上、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間はお買上げ日より1年です。保証期間内の転居や、ご都合用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店がお客様ご相談窓口、またはヤマハ修理ご相談センターへご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

#### ●修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45 (祝祭日および弊社休業日を除く)
\* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

**北海道サービスセンター**
〒064-8543
札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
Fax: 011-512-6109

**首都圏サービスセンター**
〒143-0006
東京都田辺区平和2丁目1-1 京浜ラックターミナル14号楼A-5F
Fax: 03-5762-2125

**名古屋サービスセンター**
〒454-0832
名古屋市中区清洲4丁目11-1 ビアノ瀬株式会社 名古屋営業所1F
Fax: 052-363-5903

**大阪サービスセンター**
〒554-0024
大阪市比花区高島6-2-82 ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
Fax: 06-6465-0374

**九州サービスステーション**
〒812-8508
福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
Fax: 092-472-2137

### ■ お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品に関するご質問・ご相談はお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問い合わせはヤマハ修理ご相談センターへおよせください。

<b>● お客様ご相談窓口: ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口</b> <p>ヤマハプロオーディオ・インフォメーションセンター Tel: 03-5791-7679 Fax: 03-5488-6663 (電話受付＝祝祭日を除く月～11:00～19:00) ONLINE support: http://proaudio.yamaha.co.jp/</p>
<b>● 営業窓口</b> <p>国内営業本部 EKB・LJM営業部 営業推進室 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 Tel: 03-5488-5430 PA事業部 マーケティング部 PAマーケティンググループ 〒430-8650 浜松市中央区中町10-1</p>

**ヤマハプロオーディオ ウェブサイト:** http://proaudio.yamaha.co.jp/
**ヤマハマニュアルライブラリー:** http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

● 名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合がございます。
● この取扱説明書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
● この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて著作権者のためのもので、したがって実際の仕様と異なる場合があります。

# クイックガイド

## スピーカーから音を出す

付属のスピーカーを使って、音を出してみましょう。

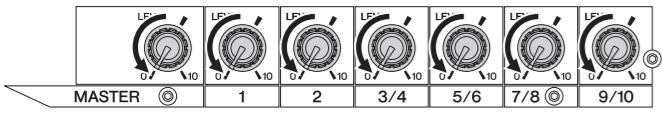
### 1 ミキサーにスピーカーや楽器などを接続します

付属のスピーカー(500S)をSPEAKER端子に接続してください。マイクや楽器などの外部機器を入力端子に接続します。接続例を参照してください。

**!** 他機器(マイクも含む)と接続する場合は、すべての機器の電源を切った状態で行なってください。また電源を入れたり切ったりするときは、必ずすべての機器の音量(ボリューム)を最小にしてください。

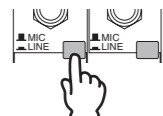
**NOTE:** エレキギターやエレキベースなどを接続する場合は、DI(ダイレクトボックス)、プリアンプ(ギターアンプ)、アンプシミュレーターなどを経由してミキサーに接続することをおすすめします。

### 2 ミキサーのLEVELコントロール、MASTER LEVELコントロールを“0”にします



### 3 接続したチャンネルのMIC/LINEスイッチをMIC ( ) または LINE ( ) に設定します

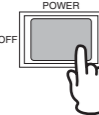
マイクなどのレベルが低い入力信号を接続したチャンネルは、MIC/LINEスイッチをMIC ( ) にします。キーボードやオーディオ機器などのレベルが高い入力信号を接続したチャンネルは、MIC/LINEスイッチをLINE ( ) にします。



**NOTE:** コンデンサーマイクを使用する場合は、PHANTOM切り替えスイッチをONにします。

### 4 電源を入れます

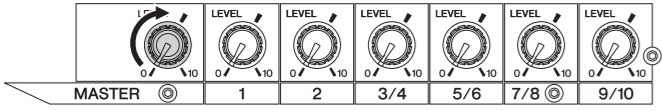
接続した外部機器の電源をすべてONにしたあと、STAGEPAS 250Mのミキサーの電源をONにします。アンプ内蔵スピーカー(パワードスピーカー)を接続している場合は、ミキサーの後に電源をONにします。



**!** スピーカーから大きなノイズが発生しないようにするため、音源に近い機器から順に電源を入れてください。

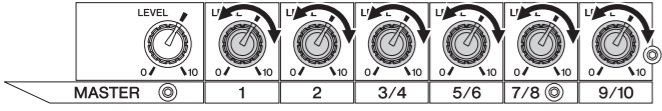
例: 音源(外部機器) → STAGEPAS 250M → (パワードスピーカー)  
電源をOFFにするときは、上記の逆の順序になります。

### 5 MASTER LEVELコントロールを“0”に合わせます



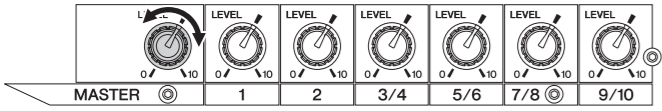
### 6 楽器やマイクで音を出しながら、各チャンネルのLEVELコントロールを調節します

LEVELメーターの“0”がときどき点灯するように、音が入力されているチャンネルのLEVELコントロールを調節します。



### 7 MASTER LEVELコントロールで全体の音量を調節します

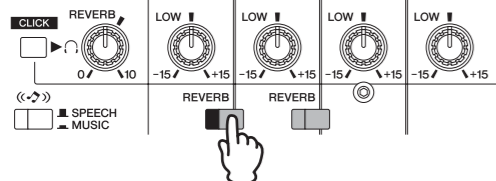
LIMITERインジケーターが長く点灯続けると、内蔵アンプやスピーカーを破損する原因となりますのでご注意ください。



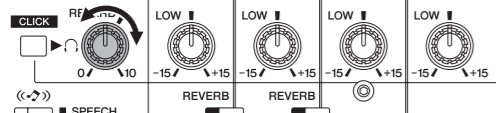
## リバーブ(残響音/エコー)をかける

コンサートホールやライブハウスで演奏しているような臨場感を得ることができます。

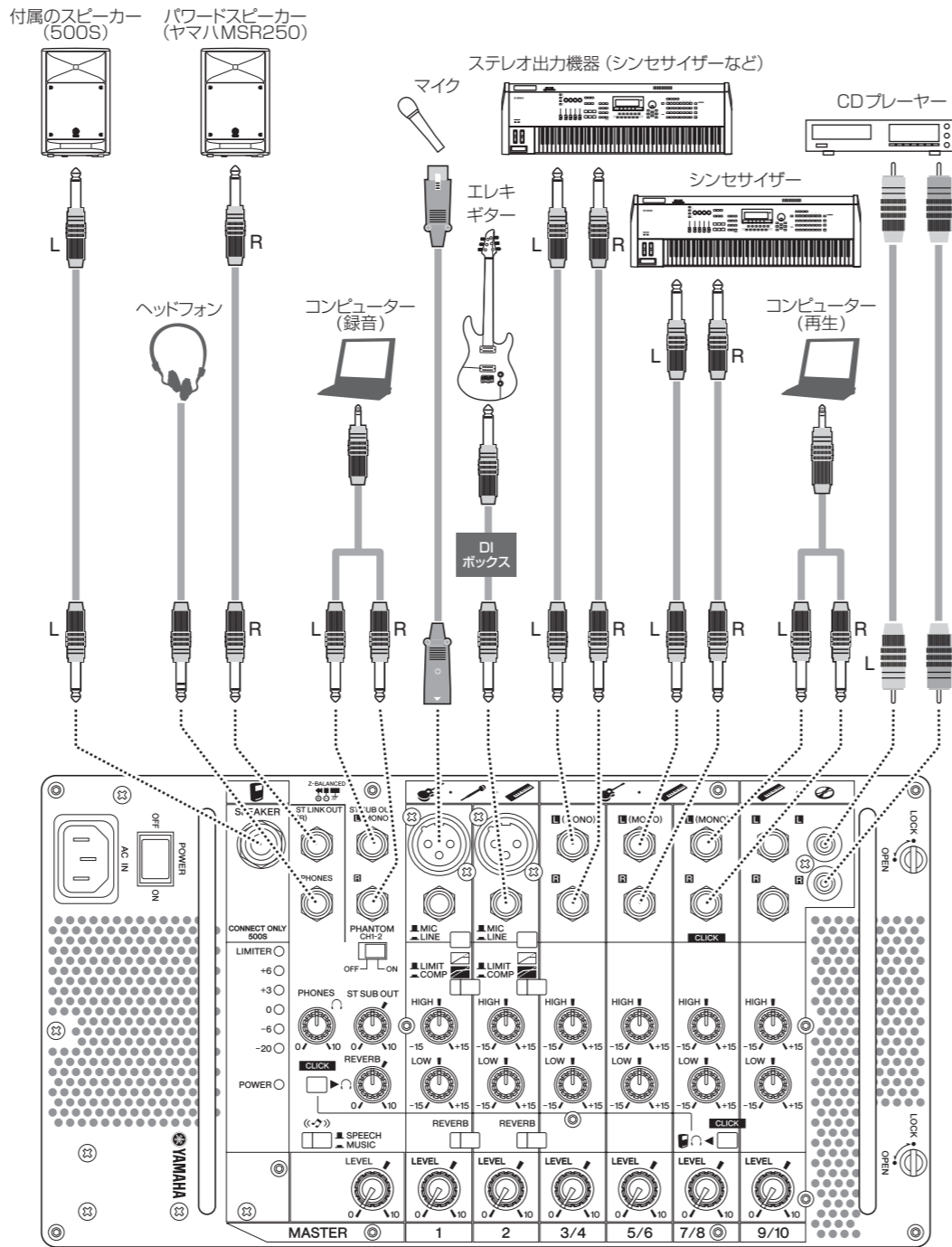
### 1 リバーブをかけたいチャンネルのREVERBスイッチを押してON ( ) にします



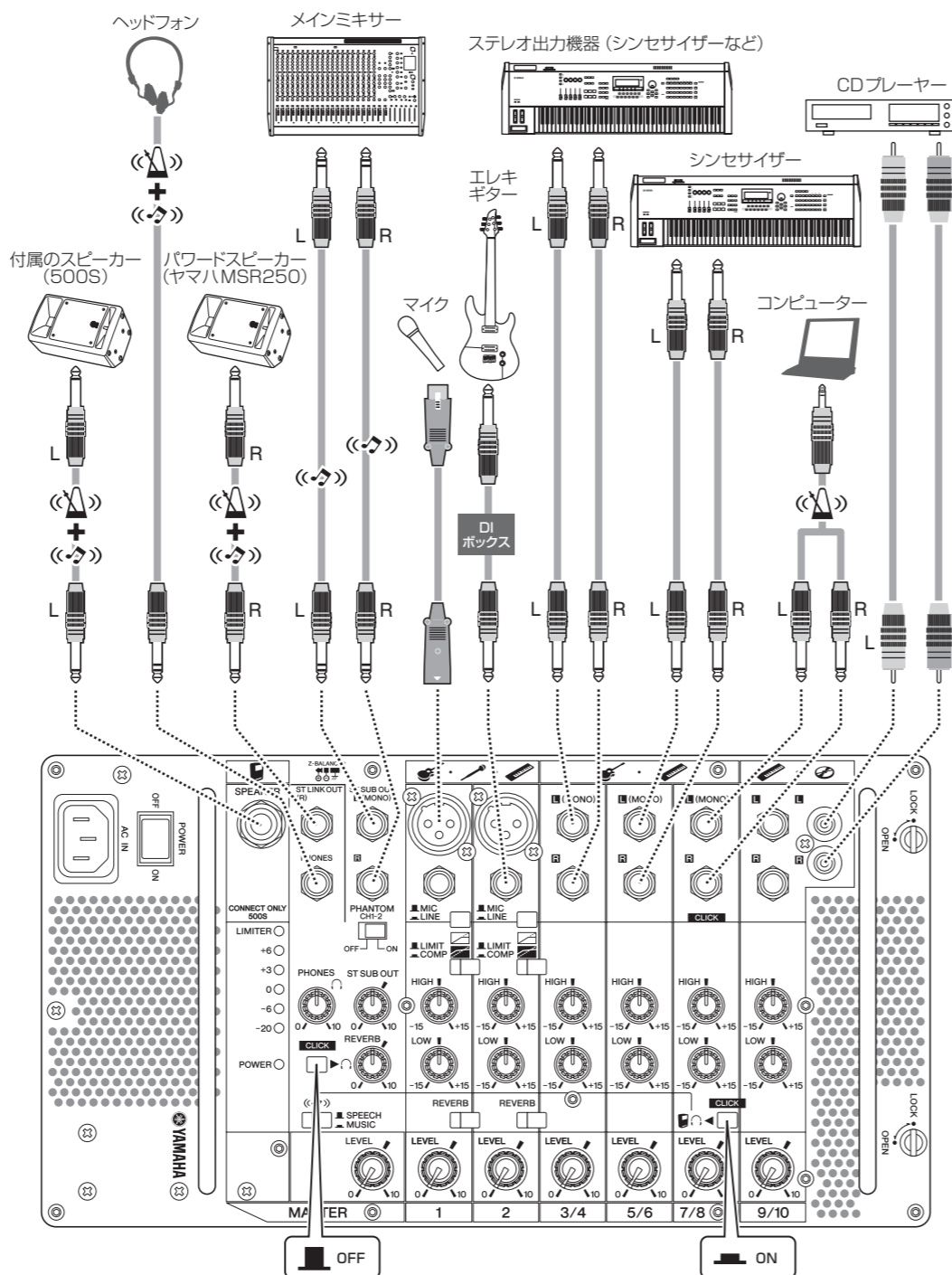
### 2 REVERBコントロールで全体のリバーブのかかり具合を調節します



## 接続例1



## 接続例2



## 各部の名称と機能

### 1 AC IN端子

付属の電源コードを接続します。

**!** 電源コードは付属のものをご使用ください。それ以外のものを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になることがあります。

### 2 POWERスイッチ

電源のON/OFFを切り替えるスイッチです。

### 23 LEVELメーター

SPEAKER端子から出力される信号のレベルを表示します。

**!** LIMITERインジケーターが長い間点滅すると、内蔵のパワーアンプに過大な負荷がかかり、故障の原因になります。信号の最大入力時に一瞬点灯するレベル以下に、MASTER LEVELコントロールで信号のレベルを下げてください。

### 23 POWERインジケーター

POWERスイッチをONにすると点灯します。POWERインジケーターが点滅している場合は、保護回路が作動しています。スピーカーケーブルが正しく接続されているか確認したあと、再度電源を入れ直してください。

### 3 SPEAKER端子

(付属のスピーカー(500S)専用)

チャンネル1から9/10の信号がミックスされてL+R(モノラル)信号が出力されます。出力レベルは、MASTER LEVELコントロールで調節します。付属のスピーカー(500S)のみを接続してください。

### 4 ST LINK OUT R端子

R信号のみが出力されます。この端子にプラグが挿入されると、SPEAKER端子にはL信号のみが供給されます。出力レベルは、MASTER LEVELコントロールで調節します。スピーカーからステレオで出力する場合に使用します。

### 5 PHONES端子

チャンネル1から9/10のミックスされた信号が、PHONESコントロールでレベル調整されて出力されます。ヘッドフォンを接続します。

### 6 ST SUB OUT L(MONO) / R端子

チャンネル1から9/10のミックスされた信号が、ST SUB OUTコントロールでレベル調整されて出力されます。メインミキサーなどを接続します。インピーダンスバランス回路を採用していますので、バランスケーブルを使用することにより、ケーブルをより長く引き回すことができます。

### 7 ST SUB OUTコントロール

ST SUB OUT端子から出力される信号レベルを調節します。  
**NOTE:** MASTER LEVELコントロールの影響は受けません。

### 8 PHONESコントロール

PHONES端子から出力される信号レベルを調節します。  
**NOTE:** MASTER LEVELコントロールの影響は受けません。

### 9 チャンネル入力端子(CH 1、2)

ギター、マイク、キーボードなどを接続します。接続した信号レベルに合わせてMIC/LINEスイッチを切り替えてください。XLRタイプの端子のピン配列は、以下のとおりです。(IEC60268規格に基づいています)  
1: グラウンド(GND)、2: ホット(+), 3: コールド(-)

**NOTE:** 一つのチャンネルでフォーン端子とXLR端子を同時に使用することはできません。どちらか一方の端子だけをご使用ください。

### 10 ステレオチャンネル入力端子(CH3/4、5/6、7/8、9/10)

ステレオ信号をL/Rに入力します。シンセサイザーやCDプレーヤーなどステレオ信号で出力される機器を接続します。

**NOTE:** 一つのステレオチャンネルでフォーン端子とRCAピン端子を同時に使用することはできません。どちらか一方の端子だけをご使用ください。

### 11 MIC/LINEスイッチ

チャンネル1、2の入力信号のレベルに応じて切り替えます。マイクなどのレベルが低い入力信号を接続したチャンネルは、MIC/LINEスイッチをMIC ( ) にします。キーボードやオーディオ機器などのレベルが高い入力信号を接続したチャンネルは、MIC/LINEスイッチをLINE ( ) にします。

**!** スピーカー保護のために、パワーアンプ(パワードスピーカー)の電源がOFFの状態では、MIC/LINEスイッチを操作してください。またMASTER LEVELコントロールを最小にしておくことをおすすめします。大音量が出て、聴力障害または機器の損傷になることがあります。

### 12 PHANTOM切り替えスイッチ

ONに切り替えると、XLRタイプのマイク入力端子(CH1、2)にファンタム電源を供給します。

- ・ファンタム電源が不要なときは、必ずこのスイッチをOFFにしておいてください。
- ・ファンタム電源をONにする場合は、コンデンサーマイク以外の機器がXLRタイプの入力端子に接続されていないことを確認してください。外部機器の故障の原因になります。ただし、バランス型ダイナミックマイクは接続されていても問題ありません。
- ・スピーカー保護のために、パワーアンプ(パワードスピーカー)の電源がOFFの状態では、ファンタム電源をON/OFFしてください。また、MASTER LEVELコントロールを最小にしておくことをおすすめします。大音量が出て、聴力障害または機器の損傷になることがあります。

### 13 LIMIT/COMPスイッチ

LIMIT/COMPスイッチをCOMP ( ) にするとコンプレッサーがかかり、LIMIT ( ) にするとリミッターがかかります。コンプレッサーは、入力信号のピークを圧縮して、音を歪ませずに全体の音量を上げることができます。聴感上の音圧が上がり、迫力あるサウンドになります。リミッターは、過大入力となる信号を特定のレベル以下に抑えます。LIMIT/COMPスイッチをCOMP ( ) にすると、COMPスイッチが黄色に点灯します。

### 14 EQ(イコライザー)

**HIGH**  
各チャンネルの高音を調節します。右に回すと高音が強調されて、はっきりしたハジレのいいサウンドになります。「キーン」とハウリングする場合は、少し左に回して高音を抑えます。

**LOW**  
各チャンネルの低音を調節します。右に回すと低音が強調されて、響きの深いサウンドになります。「ボン」とハウリングする場合や音がこもる場合は、少し左に回して低音を抑えます。

### 15 REVERBスイッチ

コンサートホールやライブハウスで演奏しているようなリバーブ(残響音/エコー)をかけたい場合は、このREVERBスイッチをON ( ) にします。ONにすると、REVERBスイッチが緑色に点灯します。

### 16 REVERBコントロール

全体のリバーブ(残響音/エコー)のかかり具合を調節します。リバーブをかけすぎると音がぼやけたり、ハウリングしやすくなりますので、少し抑えて設定します。

### 20 CLICKスイッチ

(ヘッドフォン用)

チャンネル7/8のCLICKスイッチがONのときに、このスイッチをONにすると、チャンネル7/8に入力されたクリック(メトロノーム)音がPHONES端子からのみ出力されます。

### 21 SPEECH/MUSICスイッチ

SPEECH/MUSICスイッチをSPEECH ( ) にすると、アナウンスなどのスピーチに適した音質になります。SPEECH/MUSICスイッチをMUSIC ( ) にすると、楽器演奏やライブなどに適した音質になります。MUSIC ( ) にするとSPEECH/MUSICスイッチが、黄色に点灯します。

### 18 LEVELコントロール

各チャンネルの音量/バランスを調節します。

**!** ノイズを減らすために、使用しないチャンネルのLEVELコントロールは最小“0”にしておいてください。

### 19 MASTER LEVELコントロール

SPEAKER端子またはST LINK OUT Rから出力される音量を調節します。LEVELコントロールやEQ(イコライザー)で調節した音色や、各チャンネルの音量バランスを変化させることなく全体の音量だけを調節します。

### 17 CLICKスイッチ

(ヘッドフォン/スピーカー用)

このスイッチをONにすると、チャンネル7/8に入力されたクリック(メトロノーム)音が、PHONES端子、SPEAKER端子、ST LINK OUT R端子から出力されます。ST SUB OUT端子からは出力されません。演奏者が、シーケンサーやシンセサイザーのクリック音をモニターしたいときにこのスイッチをONにします。